

幌別小学校だより

幌別小学校教育目標

- すすんで学びよく考える子
- 互いに助けあい思いやる子
- 丈夫な体でたくましく生きぬく子

(昭和62年3月改訂)

登別市立幌別小学校

学校だより 第 12 号

令和7年2月21日

「幸せになるために」 ～4つの言葉～

校長 松田周一

2月の全校朝会で、「幸せ」について話をしました。

これは、文部科学省の第4期教育振興基本計画で「日本発・日本社会に根差したウェルビーイング」の向上が謳われており、子どもたちがこれから生きていく上で、ぜひ実現してほしい概念だと考えたからです。

ただ、「日本社会に根ざしたウェルビーイング」の定義は少し難しいものです。

そこで、「ウェルビーイング」を「幸せ」と捉え、子どもたちが「幸せ」になるために大切な4つの言葉について、慶応大学の前野隆司教授の説をもとに、以下のような話をしました。

～幸せになるために大切な4つの言葉～

1. 「やってみよう！」(自己実現に向けて努力すること)

「やってみよう！」という気持ちは、自分にはできるという自信や、みんなのために役立っているという実感、そして勉強や運動を通して成長している喜びを生み出します。目標に向かって努力する中で、様々な感情が生まれ、心が満たされた時に、私たちは幸せを感じるのです。

2. 「なんとかなる！」(前向きさとチャレンジ精神をもつこと)

失敗しても、すぐに諦めずに、違う方法を考えたり、誰かに相談したりする力を持つことが大切です。「なんとかなる！」という言葉は、困難な状況でも、最後にはきっと大丈夫になるという希望を与えてくれます。

3. 「ありのままに」(自分の軸をもつこと)

他の人と比べるのではなく、自分の良いところや個性を認め、受け入れることが大切です。人はそれぞれ違うからこそ、素晴らしいのです。「ありのままに」という言葉は、自分自身を愛し、尊重する気持ちを育ててくれます。

4. 「ありがとう」(つながりと感謝を大切にすること)

周りの人や環境に感謝する気持ちを持つことが大切です。感謝することは、喜びや幸せを分かち合うことにもつながります。「ありがとう」という言葉は、人間関係を豊かにし、温かい気持ちで満たしてくれます。

幸せは、誰かと比べるものではなく、自分の心がけや努力で掴み取るものです。努力でつかみとった幸せは、子どもたちにとって、将来にわたって持続的な幸福をもたらすことでしょう。心がけで培った幸せは、本人だけでなく、取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態を保つことでしょう。子どもたちには、これらの4つの言葉を胸に、日々の努力を積み重ね、素敵な幸せをつかみとってほしいと願っています。

保護者の皆様におかれましても、お子様の成長を温かく見守り、励まし、共に幸せを追求していただけると幸いです。子どもたちの幸せは保護者の皆様の延長線上にあるのです。